

血液・尿・便検査の結果の見方



結果報告書のなかで▲▼が付いている項目は、基準値の範囲から外れているものです。

肝機能	にょう 尿ウロビリ ノーゲン	肝臓で作られるビリルビンという色素が腸内細菌によって分解されてできる物質です。基準値は(±)です。肝臓疾患などで上昇します。
	えーえすていー A S T	ASTとALTは、肝臓や心筋等に多く含まれる酵素です。
	えーえるていー A L T	高い値を示すと種々の肝障害(中毒性肝炎・急性及び慢性肝炎・肝硬変)や心筋障害などが疑われます。ASTのみが高い場合は心筋梗塞、筋肉疾患などが考えられます。
	がんまじーていー γ-GT	γ-GTは、アルコール性肝障害や閉塞性黄疸などで値が上昇します。 数値が高い場合は、アルコール性肝障害、慢性肝炎、胆汁うっ滞、薬剤性肝障害が疑われます。
	えーえるびー A L P	ALPは、骨・肝臓・胆嚢・腎臓などに含まれる酵素です。これらの臓器に異変が起こると高値傾向を示します。
	そう 総ビリルビン	総ビリルビンは、肝臓・胆道疾患・血液疾患などで上昇します。
	えるでいー L D	LDは、心筋・肝臓・骨格筋等に多く含まれる酵素です。心筋障害や急性肝炎等がおこると値が上昇します。
	コリン エステラーゼ	コリンエステラーゼは、脂肪肝では上昇し、高度の肝臓障害で低下します。
蛋白質	そうたんぱく 総蛋白	総蛋白は、血清中の蛋白全体の量です。栄養状態や肝機能障害の指針となります。 数値が低い場合は栄養障害、ネフローゼ症候群、がんなど、高い場合は多発性骨髄腫、慢性炎症、脱水などが疑われます。
	アルブミン	アルブミンは、血清中の蛋白の一種です。栄養状態や肝機能障害の指針となります。肝臓疾患・腎臓疾患・栄養不良などで低下します。
脂質代謝	ちゅうせいしぼう 中性脂肪	中性脂肪やコレステロールの血液中の値が異常値を表す状態を脂質異常症といいます。脂質異常症になると、動脈硬化を引き起こし、脳梗塞や心筋梗塞などの原因になります。
	えいちでいーえる H D L コレステロール	HDLコレステロール(善玉コレステロール)は、血液中のLDLコレステロール(悪玉コレステロール)を回収します。HDLコレステロールが低い場合は動脈硬化を進行させます。
	えるでいーえる L D L コレステロール	LDLコレステロール(悪玉コレステロール)は、多すぎると血管壁に蓄積します。LDLコレステロールが高い場合は動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞を起こす危険性を高めます。
	のんえいちでいーえる Non-HDL コレステロール	Non-HDLコレステロールは、全ての動脈硬化を引き起こすコレステロールを表すため、動脈硬化のリスクを総合的に管理できる指標です。 数値が高いと、動脈硬化、脂質代謝異常、甲状腺機能低下症、家族性高脂血症などが疑われます。低い場合は、栄養吸収障害、低βリポたんぱく血症、肝硬変などが疑われます。
糖代謝	にょうとう 尿糖	尿糖の陽性は、糖尿病・耐糖能異常・腎性糖尿などが疑われます。
	くうふくじけつとうち 空腹時血糖値	血糖は、採血した時の血液中のブドウ糖濃度です。高値は糖尿病・耐糖能異常・内分泌疾患などが疑われます。糖尿病を放置していると合併症(動脈硬化症・網膜出血・腎障害・神経症など)を引き起こす可能性があります。
	ずいじけつとうち 随時血糖値	
	へもぐろびんえーわんしー H b A 1 c	HbA1cは、過去約1~2ヶ月の平均的な血糖値を反映し、糖尿病の診断や経過観察の指標として重要視されています。ただし、高度の貧血や変異ヘモグロビンの方では、測定できない・低値になる・高値になるなど正しい結果が得られないことがあります。

腎機能	にようそちっそ 尿素窒素	尿素窒素は、体のなかの老廃物で通常は腎臓でろ過され尿と一緒に排泄されます。腎機能が低下すると上手にろ過することができなくなり血液中の値が上昇します。過度の運動・下痢・嘔吐・脱水症状の場合にも上昇します。
	クレアチニン	クレアチニンは、体のなかの老廃物で、通常は腎臓でろ過され尿と一緒に排泄されます。筋肉量が多いほどその量も多くなるため、基準範囲に男女差があります。数値が高いと、腎臓の機能が低下していることを意味します。
	いーじーえふあーる e G F R	eGFR(推算糸球体濾過量)は、クレアチニンより精度の高い腎臓機能の指標です。クレアチニン値を性別、年齢で補正して算出します。 数値が低いと腎臓の機能が低下していることを意味します。
	にようたんぱく 尿蛋白	尿蛋白は、腎臓病・発熱・運動・疲労などで陽性になることがあります。
	にようせんけつ 尿潜血	尿潜血は、目に見えない尿中の血液を検出し、腎臓・尿路系の炎症・結石・腫瘍・生理中の女性などで陽性になります。
痛風	にようさん 尿酸	尿酸は、たんぱく質の一種であるプリン体という物質が代謝された後の残りかすのようなものです。この検査では尿酸の産生・排泄のバランスがとれているかどうかを調べます。尿酸が増えすぎると足の親指や膝関節にたまり、腫れたり激痛を起こしたりします。これが痛風です。増えすぎる原因としては、作り過ぎている場合(生成亢進)と、たまり過ぎる場合(排泄抑制)の二つがあります。また高い状態が続くと、尿路結石も作られやすくなります。
血液一般	はっけっきゅうすう 白血球数	白血球は細菌などから体を守る働きをしています。 数値が高い場合は、体のどこかに炎症が起きていたり細菌やウイルスが入り病気が起きているということが疑われます。また、喫煙や血液疾患などでも認められる場合があります。 少ない場合は、ウイルス感染症、薬物アレルギー、再生不良性貧血などが疑われます。
	せっけっきゅうすう 赤血球数	赤血球が不足すると身体の細胞への酸素供給が低下し、貧血の原因となります。多い場合は多血症や心筋梗塞、血栓症の原因になる恐れがあります。
	けっしきそりょう 血色素量	血色素量(ヘモグロビン)は、赤血球の主成分で全身に酸素を運びます。
	ヘマトクリット	血液全体に占める赤血球の割合をヘマトクリットといいます。 数値が低ければ鉄欠乏性貧血などが疑われ、高ければ多血症、脱水などが考えられます。
	えむしーぶい MCV	MCVは赤血球の体積を表します。
	えむしーえいち MCH	MCHは赤血球に含まれる血色素量を表します。 MCHCは赤血球体積に対する血色素量の割合を示します。
	えむしーえいちしー MCHC	MCVの数値が高いと、ビタミンB12欠乏性貧血、葉酸欠乏性貧血、過剰飲酒が疑われます。 低いと、鉄欠乏性貧血、慢性炎症にともなう貧血が疑われます。
脾機能	けっしょうばんすう 血小板数	血小板は、出血したときなどに止血する働きがあり、出血性疾患や血栓性疾患の指標となります。数値が高い場合は血小板血症、鉄欠乏性貧血などが疑われ、低い場合は再生不良性貧血などの骨髄での生産の低下、特発性血小板減少性紫斑病などの体の組織での亢進、肝硬変などの脾臓でのプーリングが考えられます。
	けっせい 血清アミラーゼ	血清アミラーゼは、脾臓や唾液腺などに存在する消化酵素です。主に脾臓に異常があると値が上昇しますが、唾液腺の炎症などでも値が変動します。
便潜血	べんせんけつ 便潜血	便中の血液混入を調べるもので、大腸粘膜からの出血の有無をみる検査です。大腸がんなどのスクリーニングとして重要視されています。